

「STOP TPP」

(2/25 広島本通り交差点)

広島市内 120名 街頭活動『重要5品目死守』を訴える！

J Aや医師会など、広島県内の五十三団体がらつくる「TPPから食とくらし・いのちを守るネットワークひろしま」は、シンガポールで開催のTPP閣僚会議に合わせて広島市内の三箇所です総勢百二十名が街頭活動を行った。広酪からは、櫻木茂夫課長補佐(事業推進課・森田康博主事(総務管理課)の二名が参加し行動をとともにした。

広酪職員らは広酪独自の「STOP TPP」オリジナルトレーナーを身にまとい、広島本通り交差点付近で、「らくのうだより二月号」に掲載したTPP反対の意見広告と共にポケットティッシュを通行人に配布し、TPP参加に伴う危険性に触れて訴えた。

今回のTPPに触れる閣僚会議では大筋合意が見送りととなったが、TPP交渉は予断を許さない状況が続いており、広酪は引き続きTPP反対の行動に対して、関係団体と共に行動することとしている。なお、これらの街頭活動は、当日の夕方テレビニュースで放送された。



—考えてみよう！TPPのこと—

考えてみよう TPP 検索 <http://www.think-tpp.jp/>

日々徒然



かがやき

▼ある朝の通勤途中。FMラジオから「牛乳」の言葉が流れ、思わずボリュームを上げた。

▼このラジオ番組では「東京ブランド『東京牛乳』の生産者をリサーチせよ」とのミッションからリポーターが東京都西多摩郡瑞穂町にある清水牧場を訪れていた。ここは東京牛乳の生産者、東京都酪農業協同組合の副組合長の清水陸央さんの牧場であった。

▼この「東京牛乳」。去年の十月に開催された国内最大規模の牛乳・乳製品の展示会「Japan Milk Collection 2013」で、約四千名の来場者の人気投票で、全八六二アイテムの中から第二位に選ばれたもので、二〇〇六年九月に発売をはじめた「東京ブランド」。多摩地区の酪農家三十六軒から集乳した生乳で、乳脂肪分率三・七%以上、無脂乳固形分率八・五%以上のものだけが産地指定牛乳として流通している。

▼清水さんは同牧場の三代目で「酪農のこだわり」と聞かれると「長く続けること」と答え、牧場周辺に住宅があることから臭いを大変気にしておられ、牛にストレスを与えない「カウコンフォート」に触れられ、リポーターからは臭いも殆ど無く、明るい日差しと気持ちの良い風が通っていて、牛達も下に敷かれたおがくずの上に寝転んで、気持ち良さそうにしていると伝え

ていた。また、同牧場では東京では一軒だけというコンピュータ管理の搾乳ロボットも導入され何時でも搾乳できると近代化もアピールされていた。

▼清水さんの今後は「東京牛乳」を普及していく中で学校に牛を連れて行って搾乳して貰う等の「食育」そして「東京オリンピック」を機にその選手村にも使って貰いたいとの思いが聴かれた。日本の中心、東京で酪農をしていることを世界中に知って貰い、東京の酪農技術も凄いと認識されるようにしたいとも話されていた。

▼このラジオから、東京都一円の酪農専門農協はわずか六十戸を割る状況にありながら、安全で安心、尚且つ高品質な牛乳生産に對する『こだわり』、「東京牛乳」というブランドに對する強い思いを感じた。

▼広酪の生乳出荷戸数は百五十戸を割る状況になった。牛乳は水モノであり、生産者個々の生乳を差別化することは難しいものがある。昨今、戸数減少に悩む中において、「自らの生乳を売っていく強い意欲と自負があれば、全体乳質の底上げによる高品質「広島ブランド」の開発、「地産地消」に向けた取組が可能ではないでしょうか。

(T. Y)